

男女共同参画社会に向かって

男女の意識についての調査から

男女共同参画社会をさらに進めるためには、何が大切でしょうか。内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」を参考に、聞き取り調査とインタビューを行いました。男女の意識に注目しながら、これからの方向性を探ってみました。

質問1は、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念等の6分野について平等か、またはどちらがより優遇されているかを聞きました。

内閣府調査で、平等と感じている人がもっとも多かったのは、学校教育の場でした。男性優遇が多かったのは、政治の場と社会通念等でした。女性優遇は6分野すべてで少ないという結果になりました。内閣府調査結果（グラフ1）を示しての聞き取り調査も同じ傾向になりました。

聞き取り調査に寄せられた声

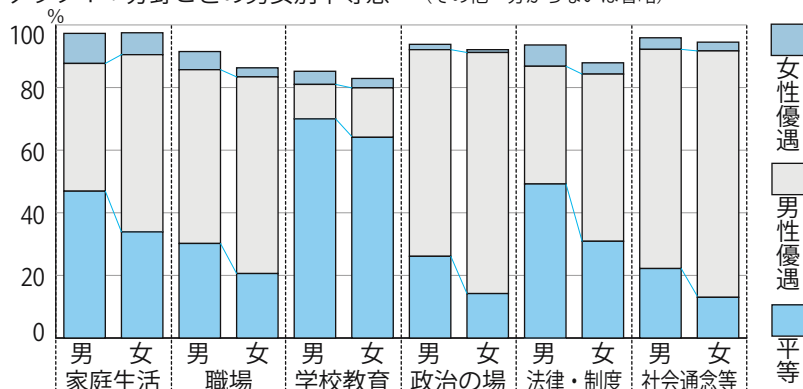
女性

- ・家庭や学校では不平等感はなかったが、就職活動では大いに感じた。（20歳代）
- ・家庭や社会通念では男性が優遇されている。この延長線上に政治の場がある。（30歳代）
- ・男女では認識が全く異なっている。お互いの立場をもっと伝え、分かり合う努力が必要。（40歳代）
- ・法律や制度では平等になってきたが、現実はまだ進んでないように感じる。（50歳代）
- ・共働きをしていくための平等にはなっていないが、慣習、しきたりはまだまだだ。（60歳代）

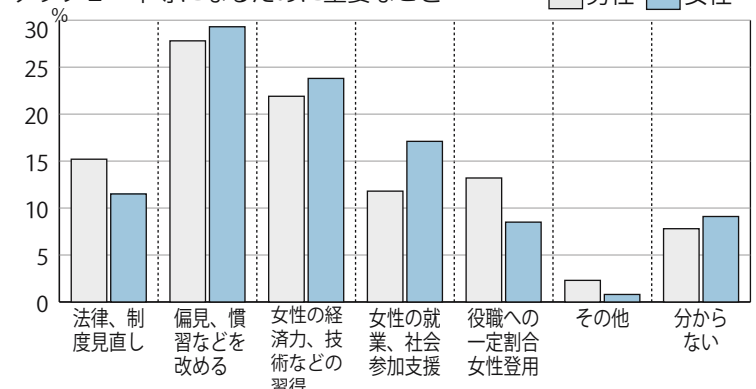
男性

- ・劇的ではないが、着々と平等に進んでいる。（20歳代）
- ・家庭生活、職場などの身の回りは、平等、共同という感じはある。（30歳代）
- ・法的には平等となったが、慣習などでは男性優位の傾向がある。（40歳代）
- ・女性の地位は平等になりつつある。（50歳代）
- ・「男女共同参画」という言葉があること自体、平等になっていない。（50歳代）
- ・公務員の職場でさえ女性への差別が著しかった。民間企業ではどうなのだろうか。（60歳代）
- ・若い人たちには平等という考え方が行き渡ってきて、よい方向に向いてきている。（70歳代）

グラフ1：分野ごとの男女別平等感（その他・分らないは省略）



グラフ2：平等になるために重要なこと



内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成16年11月）より作成

質問2は、男女が、もっと平等になるために重要なことは何かを聞きました。

内閣府調査（グラフ2）では、偏見、慣習などを改めることがもっとも多くなりました。次に多かったのは、女性自身が経済力をつけ、技術を習得するなど、積極的に向上を図ることでした。また、女性の就業、社会参加の支援を選んだ人も多くいました。

聞き取り調査でも同じような傾向になりましたが、女性の半数が偏見、慣習などを改めることを選びました。

聞き取り調査に寄せられた声

女性

- ・男女の平等より社会的格差の平等に関して、政府は力を注ぐべきではないか。（20歳代）
- ・男性より一歩引くことが日本人の美德として根付いているが、女性も一人の人間として平等に考えてほしい。（30歳代）
- ・まさに偏見、慣習の打破。（30歳代）
- ・すべての点において平等でなくてもよい。（40歳代）
- ・法律、制度ができて、現実的に充実した環境づくりが重要。（50歳代）
- ・各人の意識の変化と社会の仕組みの改革は、車の両輪のようなもの。両方がうまく変わるべき。（60歳代）

男性

- ・女性の目線から物事を考えられるようになるとおのずと平等になる。（20歳代）
- ・制度などを充実させても、何よりも女性自身の自覚と行動が必要。（30歳代）
- ・男と女では平等感が違う。（40歳代）
- ・不平等感は差別されている側にしか分からない面がある。（40歳代）
- ・頭の中では分かっているが、意識の底で偏見や社会通念を否定できない自分に気付く。（50歳代）
- ・若者に保守化が見られる。女性が「男は仕事、女は家庭」と話していると、将来が不安。（60歳代）
- ・男と女のすみ分けを差別とみる考え方に疑問あり。男の世界こそ差別が著しい。（70歳代）

男女共同参画社会に近づくためには、女性があまり進出していない分野へ女性が進出していくことも、効果的と考えられています。そのために必要と思われる施策について最後に聞きました。

最も多く望まれたのは、企業や国、地方自治体が女性の進出を促進するために、目標を設けたり計画を作成したりすることでした。審議会や選挙候補者に女性を増やすという声も多くありました。

聞き取り調査に寄せられた声

女性

- ・無理して女性として特別扱いする必要はない。
(20 歳代)
- ・女性の負担を軽減する環境づくりが必要。
(30 歳代)
- ・女性自身が、もっと知識や実力をつけることが大切。
(40 歳代)
- ・公務員ならよいが、企業によっては、必ず女性を採用するという制度は困る。
(50 歳代)
- ・女性自身がいまだに家制度、職場から一歩踏み出せないでいる。
(50 歳代)
- ・農業分野での女性の起業が多い。
(60 歳代)
- ・女性自身が広く社会に目を向け、自覚し学ぶことを可能にする社会的制度、システムの改善が必要。
(60 歳代)

男性

- ・職業に向き不向きはあると思うが、男女共にやりたい職業に就けるよう啓発すべき。(20 歳代)
- ・意図的に女性の進出を進めること自体に必要性を感じられない。
(30 歳代)
- ・これからの街づくりや物づくりには女性の視点が欠かせないので、技術職への女性の進出が必要である。
(40 歳代)
- ・数や比率を定める制度は有効だが、法律で規制すべきものではない。
(50 歳代)
- ・優先的な任命や制度には賛成できない。
(50 歳代)
- ・性別に関係なく同一労働、同一賃金の制度を実施させる。
(60 歳代)
- ・女性を特別に扱うのではなく能力があれば採用、登用していくことが原則。
(70 歳代)

インタビュー



それぞれの経験、そしてこれから



平藤さん 40 歳代女性 団体職員

仕事をする環境は

今まで、男性だからとか、女性だからという経験はありませんでした。例えば、雪かきや不審者への対応などを男性が率先してやってくれたときなどは、むしろ女性は優遇されていると感じましたよ。あまり問題意識を持たないままきました。現在の仕事では、会社訪問などの広報活動をするときに、女性ということで柔らかく対応してもらえることがうれしいです。

P T A 活動から

小学校の P T A 役員をしましたが、実際の活動は主に女性で、会長はほとんどが男性でしたね。市の P T A 連合会では、もっと女性の声が届くようにと母親委員会をつくりました。これもひとつのきっかけになり、女性が責任のある立場に就くようになったと思います。女性の視点からの意見が、通るようになったのではないのでしょうか。県内ではここ数年、女性の会長が他県に比べて多くなっているそうです。

女性が活躍するには

仕事、出産、子育てを安心してできる環境であってほしいですね。そのための法律や環境が重要だと思います。法律が整備されても、十分に運用されていないのが現状ではないのでしょうか。これからは、いろいろな分野で女性もどんどん活躍してほしいですね。それには、男女がお互いに尊重し合うことが大切だと思っています。

神さん 30 歳代男性 団体職員

職場の男女比は

12 年前に入社したときは、自分の部署はすべて男性でした。今は 4 割が女性です。仕事上では、男女で向き不向きはないと思っています。

女性が働き続けるには

以前は、小さな子どもがいるパートさんが突然休むと、正直、だから女性はダメなんだと思ったことがありました。しかし、仕事で先輩の女性たちと接することで、考え方が変わってきました。今では、どうしたら仕事がスムーズにいくかを考えて対処しています。結婚退職者はほとんどいませんが、子どもができて辞める人が多いですね。家庭の事情などがあるとは思いますが、産休や育児休業の制度を大いに活用して「有能な女性たちよ辞めるな」という思いです。

男性もかかわりたい

男性職員の中には帰宅が遅く、子どもの寝顔しか見られないと言っている人が多いです。もっと家族との時間を持ちたいと思っているのではないのでしょうか。男性で育児休業を取った人はいないですね。まだ取りにくいのが現状だと思います。

自分を売り込んで

女性が能力を発揮するには、男性の理解も大切だと思います。そして、女性ならではの発想や得意分野を生かして、もっと自分を売り込んでほしいです。

男女の平等感についての質問などから、平等と感じている人、まだまだ男性優遇と思う人など、環境や立場の違いで、さまざまな考え方があることが見えてきました。偏見や固定観念などが男女の意識の違いの背景になっているようです。意識の違いに気づき、お互いを認め合いながら、社会の中でみんなが活躍できるようにしていくことが、男女共同参画社会へ向かう一歩になると思います。

はてな



© 向井田泰子

☆あの・なはん編集員募集☆

内容：「あの・なはん」の企画や取材、記事編集

対象：市内在住の 18 歳以上の女性で、毎週水曜日（日中）ボランティアで活動できる方

場所：プラザおでって 5 階
女性センター本館
（中ノ橋通一）

定員：15 人

申込期限：3 月 17 日(金)

※詳しくは男女参画国際課

☎ 626-7525 へ



▼お互いにできること、男、女と型にはめずに考えられたらいいのにな。（U）

▼インタビューは、ともに気負わず自然体で仕事をしている 2 人でした。（M2）

▼しあわせは、自分が大切にされ、誰かの役に立っているとカンジたとき。（花）

▼自立する子のうれしさに、寂しさ隠し強がり・・・
（k i k u）

▼いろいろな出会いや出会いからまだまだ成長していきたい。（は）